

北海道喜茂別町

ICTを活用した 災害情報の伝達

令和3年11月5日 喜茂別町 総務課





喜茂別町の基礎情報

大雨の際、土砂災害と洪水の危険性

○人 □:2,013人

〇世帯数:1,160世帯

(※令和3年10月1日現在)





○地域の特徴

災害

地勢	一級河川「尻別川」と「喜茂別川」の上流部合流地点に位置「蝦夷富士」羊蹄山の麓、山に囲まれた谷状の地形
産業	主に農業(アスパラ、じゃがいも、メロン、とうもろこし、トマトなど)



喜茂別町の情報発信

情報通信

- ・平成22、23年度:町内全域に光ファイバー整備(デジタルデバイド、地デジ難視聴対策)
- ・平成22、23年度: I P告知端末を初整備(令和元年度にシステム更新)
- ・令和元年度:旧IP告知端末を更改。併せて、スマホアプリを整備

町独自の 情報伝達手段

- ・ <u>I P告知端末</u>:現行端末は、約1,200世帯中、希望の600世帯に設置
- スマホアプリ: JCC社製「JC-Smart」を利用中
- HTBデータ放送:現在の「onとく」を利用中

I P 告知端末の 整備理由

・地形上、洪水や土砂災害の危険性が高いことから、音声システム「オフトーク(音声伝達)」だけではなく、IP告知システム(視覚伝達、テレビ電話機能)」を導入。令和元年度に新(現行)システムに更改

スマホアプリの 整備理由

・ I P告知システム更改時に、町の財政的問題と町民の将来的な情報収集手法とスマホの普及率を考慮。また、 I P告知端末未設置世帯をフォローするため



情報発信端末

オフトーク、

屋外拡声器

・全世帯に設置



IP告知端末<旧型> (タッチパネル式)

・全世帯に設置



○特徴

音声放送機能

- 聴覚的な伝達
- (×)履歴が見られない
- (×)情報が限定的
- (×)聞こえない

音声放送+情報表示機能

- ・ 聴覚的+視覚的な伝達
- 情報の見返しが可能
- (×)宅内でしか見られない

IP告知端末<新型(現行)>

(タッチパネル式)

・600世帯/約1,200世帯に設置



<現行>

〇端末:アルカテル・ルーセント社製/KCME社代理店・提供者

○システム: KCME社製

○アプリケーション:JCC社製

音声放送+情報表示+テレビ電話機能

- 聴覚的+視覚的な伝達
- 町内の域内通話により、特殊詐欺の 防止や高齢者の見守り
- (×)宅内でしか見られない





プラス 十







スマートフォン用アプリ JCC社製「JC-Smart」



約800ダウンロード (町民の約1/2に相当) 每月20~30DL增



メニュー画面



行政サービス・地域情報 (町立クリニックの診療待ち人数)



定点カメラ



避難所•場所

- IP告知端末と同等の情報伝達能力
- 場所を特定しない情報伝達が可能
- (×)音声伝達が出来ない
- (×)プッシュ通知が難しい





しかし、これでも伝達出来ない可能性がある

地域情報化から町民誰一人、取り残さない

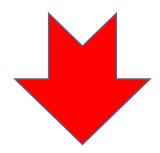
さらに、コンピューターやインターネットの知識がなくても、

誰もが恩恵にあずかれる物と方法(仕組み)

「自治体DX Socity5.O」

注意)

ただし、複数業者・複数システムを導入してしまうと 入力システムが煩雑になり、緊急時に操作が出来ず 使い物にならない可能性を防ぐ必要がある!







それは、



☆地上デジタル放送 ☆Hybridcast

「Hybridcast」は、日本放送協会(NHK)の登録商標です。

北海道の民放地上波放送局「HTB」、アプリ提供元「JCC」に

考えをお伝えし、<u>IP告知端末・スマホアプリと同じシステムから、</u>

テレビにも情報が流れる仕組みが実現!



最後に

この仕組を、当町が導入すると

- I P 告知端末設置 600世帯、
- ・スマホアプリインストール数 約800名、
- そしてテレビを持っている方々

に情報発信をすることが可能となり、

当町のほぼ全員に情報伝達が出来ることになります。

しかし、いくら良い仕組みを整備しても、使う側が使い切れなければ 何にもなりません。また、平時の利用方法も考慮しなければなりません。

これらの仕組みを利用した、効率的・効果的な情報伝達手法を、

今後も研究していく必要があると実感しています。

